

八洲学園大学 生涯学習学部

# 学習ガイド

2009

八洲学園大学

# 目次

## 学習ガイド

1	何をめざすのか	.....	3 頁
2	何を学ぶのか	.....	5 頁
3	どのように学ぶのか	.....	12 頁
4	人間開発教育専攻が提供する 国家資格・履修証明・認証	.....	14 頁
5	家庭教育専攻が提供する 資格・認証・修了証	.....	20 頁

## はじめに 我が国唯一の生涯学習学部生涯学習学科

平成21(2009)年4月1日改組の八洲学園大学(以下「本学」という。)生涯学習学部は、新たに「生涯学習学科」を置き、その中を「人間開発教育専攻」「家庭教育専攻」としています。

生涯学習学部生涯学習学科というのは、我が国では本学にしかない新しい学科で、これからの生涯学習社会実現に貢献することをめざしています。

### 1 何をめざすのか

#### 八洲学園大学

本学では、人間性豊かなeラーニングで生涯学習やその基盤となる幅広い学問を学びます。次のようなことが可能です。

- ・大学で学問をしたいという夢を実現すること
  - ・社会人の基礎力及び実務能力・コミュニケーション力を身につけたり、地球環境・地域づくり・家庭教育などの知識・スキルを修得したりすること
  - ・国家資格(社会教育主事・司書・司書教諭・学芸員)や豊富な科目修得認証を取得して、社会で活かすこと
- など

#### 生涯学習学部

生涯学習学部がめざすのは、個人や社会の学習の課題を発見・解決し、新たな道を拓くことのできる資質・能力を養い、高めることで、社会のあらゆるところで行われている人間力向上のための生涯学習を支援する人材の養成です。

#### 生涯学習学科

生涯学習学科では、企業・行政・施設・各種団体などにあって社会人の学習を支援したり、また家庭教育を支援したりする専門的能力、それを支える基礎的な力を培います。

#### 人間開発教育専攻

人間開発教育専攻は、生涯学習基礎論・社会教育グループ、人材開発教育グループの科目で、職業能力開発を含む生涯学習についての深い識見、専門的知識・技術、その基盤となる豊かな人間性を養います。

企業の能力開発支援を含め、広く生涯学習社会の実現のために社会に貢献し、各種学習支援プログラムをデザイン・実施・運営する人、図書館、博物館で専門性を生かして働く人、企業などで能力開

発を支援する人、社会人としての高い基礎力を持ち、実社会で活躍できる人の養成をめざしています。

たとえば、

- ・地域で学習支援をデザイン・運営したり、学習相談のできる人
- ・図書館、博物館で専門性を生かして働くことのできる人
- ・企業などで能力開発を支援する人
- ・地域づくり、起業、再チャレンジを実践・支援する人

などです。

## 家庭教育専攻

家庭教育専攻は、家庭教育の理論と方法を深く学ぶことによって家庭教育を熟知し、社会において専門家として活躍し、家庭を支援できる資質を持った人材を養成することをめざしています。

たとえば、

- ・家庭教育について多面的に幅広く学ぶことによって、自らの人生を内面において豊かにするとともに、よりよい家庭を築き、家庭の教育を充実させようとする人
- ・家庭教育の理論と方法を体系的・学問的に深く学ぶことによって、家庭に起因するとみられる様々な問題を的確に分析し、解決する力を身につけようとする人
- ・日本家庭教育学会認定の「家庭教育アドバイザー」と「家庭教育師」の資格を取得し、家庭教育の専門家として、職場ないしは社会において活躍の場を開拓しようとする人
- ・市町村の家庭教育関連事業、公民館やPTAで開催される家庭教育講座などですでに活動をしている方で、さらに家庭教育に関する専門的な知見を獲得し、職場でのスキルアップをめざしたい人

などです。

## 2 何を学ぶのか

### 開設科目の構成

本学の開設科目は、基礎科目、専門科目及び資格科目に分かれています。  
基礎科目、専門科目はさらに科目群に分かれており、特色は次の通りです。

#### 基礎科目

##### ア．生涯学習の基礎

人間開発教育専攻の基本的なことを学び、生涯学習、社会教育、人材開発教育の基礎を培う科目群。

##### イ 生涯学習基礎論・社会教育

生涯学習社会と学習成果の評価、生涯学習の方法、社会教育施設・事業、図書館関係の基礎科目など生涯学習基礎論・社会教育の基礎を培う科目群。

##### ウ 人材開発教育

ものの見方・考え方、日本経済・産業概論など人材開発教育の基礎を培う科目群。

##### エ 家庭教育の基礎

よりよい家庭を目指して生活する日常の中での基本的なことがらを幅広く学ぶ家庭教育専攻の基礎となる科目群。

##### オ 学校教育と家庭教育の連携

保育園・幼稚園教育、初等教育、中等教育と家庭教育概論、学校・家庭における心の教育を論ずる科目群。

##### カ 法と生活

憲法、日常生活・福祉・教育・児童などの保護と法の関係論を論ずる科目群。

##### キ 言語と文化

英語、韓国、中国の言語と文化や、わが国の伝統的文化(和歌、俳諧、祭事、行事)の継承を論ずる科目群。

## 専門科目 人間開発教育専攻

### 1 生涯学習基礎論・社会教育グループ科目

#### ア 生涯学習論

生涯学習設計、支援・推進、政策、システム・ネットワーク、学習支援情報収集・提供、学習相談、キャリア形成、学習成果の評価と活用など、幅広い生涯学習支援を扱う科目群。

#### イ 社会教育学

社会教育計画、社会教育課題研究、学社連携・融合論、施設・事業、社会教育調査法などの科目群。

#### ウ 図書館学

図書館サービス論・経営論、専門資料論など、司書資格を取得するための科目であるとともに、生涯学習支援ないし社会教育の専門科目となっている科目群。

#### エ 博物館学

博物館の経営論、情報論、資料論など、学芸員資格を取得するための科目であるとともに、生涯学習支援ないし社会教育の専門科目となっている科目群。

### 2 人材開発教育グループ科目

#### ア ビジネスと社会人基礎力

経営と行動科学、リーダーシップ論など、実務や社会人基礎力の向上に役立つ、経営から実務レベルまでの実践的な科目群。

#### イ 論述・コミュニケーション

読解力や論述力、表現力、論理的思考力の諸問題の検討とともに、日本語リテラシーやコミュニケーションに関わる広範なスキルや知識の向上を目指す科目群。

#### ウ 財政・経済・まちづくり

財政や経済の知識、国・地方自治体の財政・税制の仕組みを学び、まちづくりをケーススタディで学ぶ科目群。

#### エ 温暖化対策・省エネルギー

省エネルギー、資源環境などの学習を通して、地球との共存を図るための、新しい価値観に基づくライフスタイルを探る科目群。

#### オ 仕事移動診断

転職、地域社会活動移動の診断に関する科目で、総論、各論（転職、地域社会活動移動）の他に、診断技法からなる科目群。

## 専門科目 家庭教育専攻

### ア 家庭教育論

家庭教育学の研究法、日本・西洋の家庭教育史、東アジア家庭教育論などと共に、家庭教育学の基礎となる教育社会学、教育心理学、家族社会学などを学ぶ科目群

### イ 乳幼児期教育論

乳幼児教育の内容と方法、幼児教育の歴史と展望、乳幼児の身体運動と情操教育、小児期の心身・精神医学、障害児と家庭教育など、乳幼児期教育を幅広く論ずる科目群。

### ウ 児童期教育論

生命尊重、自律の精神、礼儀、宗教的心情の育成、体験と心の育ち、児童期の発達と心理などの児童期の発達と家庭教育を論ずる科目群。

### エ 青年期教育論

人生と生きがい論、規範意識の育成、正義感の育成、徳の倫理、個性尊重と創造性の育成などに分けて青年期教育を論ずる科目群。

### オ ケーススタディ

幼児の体罰と虐待、小学生の問題行動、中学生の不登校、高校生非行の実態等、様々な事例を通して乳幼児期から青年期に至るまでの問題行動や問題意識の分析を通して学習する科目群。

### カ カウンセリング

演習で、カウンセリング(理論と方法、面接技法、乳幼児と母親、小学生と親、教育)を学ぶ科目群

### キ 社会文化論

東西の倫理思想 現代社会の倫理的課題、宗教、日本武道の歴史、身体運動文化論、日本文学論などを通し広く社会文化を論ずる科目群

## 科目名一覧

ここに示すのは、科目群毎の科目名一覧です。

- \* T：テキスト履修科目
- S：スクーリング履修科目
- SS：セミナースクーリング履修科目
- RS：レポートスクーリング履修科目
- G：卒業論文関係科目

スクーリング（S・SS・RS）の中には、来校しなければ受講ができないものもありますので、履修申請時にシラバスをよく確認して下さい。

## 基礎科目

<b>生涯学習の基礎</b>		<b>家庭教育の基礎</b>	
生涯学習論 1（生涯における学習設計）	T又はS	夫婦関係概論	T
生涯学習論 2（生涯学習の支援・推進）	T	人生の哲学と人間形成	T
現代社会と生涯学習	S	心理学概論	T
図書館概論	T	伝統倫理のなかの家庭教育	S
テクノロジーの発達とヒューマニティ	S	子どもの思想史	S
文章表現 1（文章表現入門）	S	日本人の宗教・信仰心	T
論述力スキル（アカデミック・ライティング）	S	家庭のなかの健康管理	S
法学概論	S	道徳心の育成	T又はS
経済学概論	S	ボランティア論	S
<b>生涯学習基礎論・社会教育</b>		幼児教育学概論	T
生涯学習の方法	T	家庭のなかの文学	S
生涯学習社会と学習成果の評価	T	<b>学校教育と家庭教育の連携</b>	
社会教育施設と事業	T	教育学概論	S
図書及び図書館史	T	保育園・幼稚園教育と家庭教育概論	T
情報化社会と情報の選択（公共図書館・大学図書館編）	T	初等教育と家庭教育概論	T
<b>人材開発教育</b>		中等教育と家庭教育概論	S
ものの見方・考え方演習 1（日本資料）	S	学校・家庭における心の教育	T又はS
ものの見方・考え方演習 2（東洋資料）	S	<b>言語と文化</b>	
ものの見方・考え方演習 3（西欧資料）	S	英語	SS
日本経済・産業概論	S	英語	SS
<b>法と生活</b>		韓国の言語と文化	S
日本国憲法	S	韓国の言語と文化	S
日常生活・福祉と法	S	中国の言語と文化	S
地方分権と教育	S	中国の言語と文化	S
児童・少年の保護と法	S	伝統文化の継承（演習）（和歌・俳諧）	T又はS
		伝統文化の継承（演習）（祭事・行事）	S
		伝統文化の継承（演習）（茶道・華道）	SS
		日本人の美意識概論	T
		国際社会とライフスタイル	T

専門科目 人間開発教育専攻

生涯学習基礎論・社会教育グループ科目		人材開発教育グループ科目	
<b>生涯学習論</b>		<b>ビジネスと社会人基礎力</b>	
生涯学習政策	T	現代日本企業概論	S
生涯学習支援システム・ネットワーク	S	現代マネジメント概論（基礎編）	S
学習支援情報・学習相談	T	現代マネジメント概論（応用編）	S
地域学習支援情報の収集・提供	T	企業経営とコーポレート・ガバナンス	S
学習成果の活用と地域学習支援情報の提供	T	経営と行動科学	S
学習相談のためのカウンセリング	T	リーダーシップ論	S
生涯学習とキャリア形成	T	リーダーシップとコーチング	S
生涯学習学研究法（演習）	S	仕事学のすすめ（問題解決と意思決定）	S
生涯学習学新構想（演習）	S	構想力開発論	S
<b>社会教育学</b>		アイデア発見スキル1（語句・文章から）	S
社会教育計画1（総論）	T	アイデア発見スキル2（物・論理から）	S
社会教育計画2（各論）	T	実践マーケティング	T又はS
社会教育課題研究1	T	顧客価値創造の経営学	S
社会教育課題研究2	T	生産管理	S
学社連携・融合論	T	企業人物論（東洋）	S
社会教育調査法1（社会教育調査の技法）	T	企業人物論（日本）	S
社会教育調査法2（社会教育調査の実際）	T	企業人物論（西欧）	S
社会教育学研究法（演習）	S	<b>論述・コミュニケーション</b>	
社会教育学新構想（演習）	S	ラピッドリーディング・スキル	S
<b>図書館学</b>		読解力スキル1（実践的読解力）	S
児童サービス論	T又はS	読解力スキル2（学術文書読解）	S
図書館サービス論	T	文章表現2（文章と構成）	S
図書館経営論	T	自己表現力スキル1	S
情報サービス概説	T	自己表現力スキル2	S
レファレンスサービス演習	S	プレゼンテーション・スキル	S
情報検索演習	S	論理的思考1（数学的思考と発想）	S
図書館資料論	T	論理的思考2（論理と表現）	S
専門資料論	T	日本語学概論	T
資料組織概説	T	<b>経済財政・財務・まちづくり</b>	
資料組織演習	S	財政学概論	T
<b>博物館学</b>		地方財政・自治体論	S
博物館学（概論）	T	地域開発・まちづくり論	T
博物館学（経営論・情報論）	S	都市経営・公共政策論	S
博物館学（資料論）	T	法人税法（総論）	S
博物館実習	R S	法人税法（各論）	S
視聴覚教育メディア論	T	税務と財務諸表	T
教育の理論	T	株・保険・投資ファンド論	T
		<b>温暖化対策・省エネルギー</b>	
		省エネルギー概論	S
		資源環境と人間	S
		水資源概論（食糧と水・エネルギー・環境）	S
		<b>仕事移動診断</b>	
		仕事移動診断総論	T
		仕事移動診断各論（転職）	T
		仕事移動診断各論（地域社会活動移動）	T
		仕事移動診断技法（転職）	S S
		仕事移動診断技法（地域社会活動移動）	S S
<b>研修</b>			
学外実地研修			R S
<b>特別講義</b>			T又はS
<b>特別研究</b>			T
<b>卒業研究演習</b>			G
<b>卒業論文</b>			G

専門科目 家庭教育専攻

<b>家庭教育論</b>		<b>青年期教育論</b>	
家庭教育学新構想	T又はSS	情報化社会と情報の選択	T
家庭教育研究法	T又はS	言語生活と社会	S
教育社会学概論	S	善悪の判断形成と家庭教育(演習)	S
教育心理学概論	T	人生と生きがい論	T又はS
教育心理学概論	T	規範意識の育成	T
日本家庭教育史(近代以前)	T又はS	正義感の育成	S
日本家庭教育史(近代以後)	S	徳の倫理	S
西洋家庭教育史	S	道德教育の研究	T
東アジア家庭教育論	S	個性尊重と創造性の育成	T又はS
家族社会学概論	S	公共精神の育成(演習)	S
<b>乳幼児期教育論</b>		青年期の体験活動育成(演習)	S
乳幼児のしつけ(演習)	S	青年期の身体運動	T
胎児と環境	T	中高生の武道スポーツと人間形成(演習)	S
乳幼児の食生活	T又はS	<b>ケーススタディ</b>	
乳幼児の身体運動と情操教育(演習)	S	ケーススタディ(演習)「幼児の体罰と虐待」	S S
育児国際比較論	T	ケーススタディ(演習)「小学生の問題行動の実態と対応」	S
幼児教育思想史	T又はS	ケーススタディ(演習)「小学生の不登校」	S
小児期の心身・精神医学入門	S	ケーススタディ(演習)「中学生の不登校と生活環境」	T又はS
親子の信頼関係	S	ケーススタディ(演習)「中学生非行の前兆と対応」	T又はS
障害児と家庭教育	S	ケーススタディ(演習)「高校生非行の実態と要因分析」	S
障害児の教育と特別支援	S	ケーススタディ(演習)「青年期のドロップアウト」	S S
<b>児童期教育論</b>		<b>カウンセリング</b>	
生命尊重と家庭教育	T又はS	カウンセリング(演習)(乳幼児と母親)	S
自律の精神と家庭教育	S	カウンセリング(演習)(小学生と親)	S
礼儀と家庭教育	S	カウンセリング(演習)(理論と方法)	S
宗教的心情の育成と家庭	T	カウンセリング(演習)(面接技法)	S
伝統社会の児童教育論	S	カウンセリング(演習)(面接技法)	S
体験と心の育ち	T又はS	教育カウンセリング(演習)	S
地域社会との連繋	T	<b>社会文化論</b>	
働く意欲の探求	T	倫理学概論	T
児童期の発達と心理	T	東洋倫理思想概論	T
児童期の発達と親の対応	T	西欧倫理思想概論	T
児童の発達と身体運動論	T	現代社会の倫理的課題	T
キャンプ活動の指導論	T	現代の社会病理	T
レクリエーション活動の指導論	T	日本武道の歴史	T
		民族と宗教	S
		宗教人物論	S S
		宗教学概論	T
		環境とライフスタイル	T
		身体運動文化論	T
		現代社会といやし	T
		日本文学概論	T
		<b>研修</b>	
		学外実地研修	R S
		<b>卒業研究演習</b>	
			G
			G

**資格科目 学校図書館司書教諭**

学校経営と学校図書館	T	読書と豊かな人間性	T
学校図書館メディアの構成	T	情報化社会と情報の選択 *	T
学習指導と学校図書館	T		

資格科目は卒業単位として認められません。

\*ただし「情報化社会と情報の選択」は家庭教育専攻の専門科目となります。

### 3 どのように学ぶのか

#### (1) 学生の区分

学生は、次の区分のいずれかとして入学します。学生の種類によって履修の仕方が異なります。

学生区分	対象	修業年限・在学年限	取得できるもの
正科生（1年次）	本学の卒業を目指す方	修業年限は4年以上 在学年限は12年以内	学位記：学士（学術）
正科生（編入生）	短期大学や専門学校等の卒業者あるいは他大学の中退者で一定の条件を満たしており、本学の卒業を目指す方。 就業期間・在学年限により2年次相当転・編入と3年次相当転・編入があります。	【2年次相当転・編入】 修業年限は3年以上 在学年限は9年以内 【3年次相当転・編入】 修業年限は2年以上 在学年限は6年以内	学位記：学士（学術）
科目等履修生	大学入学資格を有しており、資格等の取得を目指すなど、一部の科目の履修を希望する方。	在学年限は原則3年。 3年後に申請により期限を延長することも可能です。	履修した科目の単位
特修生	中学校卒業等の大学入学資格を有していない方。 特修生として入学後、指定する科目から16単位を修得し、かつ入学を希望する年の4月1日に満18歳に達していれば、所定の手続きを経た上で本学の正科生となることが可能です。	在学年限は原則3年。 3年後に申請により期限を延長することも可能です。	正科生としての入学資格を得た後に、正科生として卒業することで、 学位記：学士（学術）が取得できます。

注：正科生、科目等履修生は上記のほか、所定の科目の単位を修得することで、本学が付与している各種資格が取得できます。

#### (2) 履修方法

履修方法にはテキスト履修、スクーリング履修、卒業論文関係等があります。卒業までに必要な124単位のうち30単位以上は、必ずスクーリング履修を受講する必要があります。

##### 【テキスト履修：この履修形態をとる科目をテキスト履修科目（T科目）という】

教科書による自学自習を主とし、1単位当たり1回1,600字程度（科目によって異なります）の課題レポートを提出し添削指導を受け、課題レポートおよび科目修得試験に合格すると単位が取得できます。

あるいは2,000字程度の論文を書いて合格すると単位が取得できます。ただし、一人で一定レベルの論文を書くのはなかなか難しいものです。論文方式をとる場合には、事前に申請することが求められます。

課題レポートの提出、担当教員への質問等はeラーニングシステムを利用して行います。質問は随時送信可能です。科目修得試験は、通学でもeラーニングシステムでも受験できます。

##### 【スクーリング履修：この履修形態をとる科目をスクーリング履修科目（S科目）という】

授業の開講日時に合わせてアクセスすれば、通学することなく自宅でメディアスクーリング（双方向ライブ授業）を受講することが可能です。チャットで質問したり意見を述べたりすることができま

す。もちろん、大学に通学しても構いません。

出席が良好で、かつ最終試験に合格すると単位が取得できます。

仕事等のために、時間割通りの時間に受講できない学生のために、その日に限って受講が認められる再配信授業を一部の科目で導入しています。その日に受講が不可能な場合、やむを得ない理由であれば、担当教員にその旨を伝え、許可を得た上で、録画配信教材で学習してください。

時間割には平日の日中及び夜間に開講される通常スクーリングの他、週末スクーリング、集中スクーリング、土日半日スクーリングがあります。本学のホームページをご覧ください。

#### 【卒業論文関係】

希望者のみが履修する選択科目で、卒業研究演習と卒業論文を1年かけて履修します。

卒業論文を履修する場合には原則として、それまでに100単位以上修得していることが求められます。

### (3) 卒業要件

#### 【正科生(1年次)】

4年以上在学し、下の表に示した科目区分にしたがって124単位以上を修得することで、卒業することができます。ただし、30単位以上はスクーリング履修(S科目)を修得しなければなりません。

区分	選択必修
基礎科目	30
専門科目	64
自由選択科目	30
計	124

注 ア 自由選択科目は、既履修以外の基礎科目及び専門科目および他専攻の科目から自由に選択できます。

イ 専門科目は20単位まで他専攻の科目を選択できます。

ウ 資格科目は卒業単位には含まれません。

#### 【正科生(編入学)】

編入学又は転入学により本学の正科生となった場合は、本学入学前に修得した科目から最大60単位が卒業単位の一部として認められます。

その単位数を卒業単位数124単位(S科目30単位)から減じた単位数(うち、認定単位数に応じS科目の単位18単位~30単位以上)を修得し、定められた期間以上在学することで、卒業することができます。

#### 4 人間開発教育専攻が提供する国家資格・履修証明・認証

##### (1) 国家資格(任用)

社会教育主事、図書館司書、学校図書館司書教諭、博物館学芸員の4つの国家資格が取得できます。社会教育主事、図書館司書、博物館学芸員の国家資格は卒業単位124単位の中で修得できますので、正科生は卒業と同時にこれらの3つの国家資格を取得することが可能です。

##### 教育訓練給付制度と国家資格の取得

本学で取得できる4つの国家資格(社会教育主事、図書館司書、学校図書館司書教諭、博物館学芸員)は、いずれも厚生労働省の教育訓練給付制度の対象として認可されています。1年間で資格科目を修得すれば、教育訓練経費(授業料等にほぼ該当\*)の20パーセントがハローワークから支給されます。ただし、科目等履修生に限ります。

\*詳しくは、学生支援センターにお問い合わせください。

## 【社会教育主事】

社会教育主事は教育委員会事務局で、住民の学習ニーズの把握、社会教育行政計画・事業の立案と運営、社会教育関係者に対する指導・助言、学校の求めに応じた助言等を行います。社会教育主事の資格は、社会教育関係の施設職員、指導員、生涯学習アドバイザーなどとして活躍する上でも有利な国家資格です。

### 履修科目

開設授業科目	単位数	履修方法等	社会教育主事講習等規程で定める科目及び単位数	
生涯学習論 1(生涯における学習設計)	2	2科目 4単位必修	生涯学習概論 4単位	
生涯学習論 2(生涯学習の支援・推進)	2			
社会教育計画 1(総論)	2	2科目 4単位必修	社会教育計画 4単位	
社会教育計画 2(各論)	2			
社会教育学新構想(演習)	2	左欄の科目から 4単位選択	社会教育演習、社会教育実習 又は社会教育課題研究の1以上の科目 4単位	
社会教育学研究法(演習)	2			
生涯学習学新構想(演習)	2			
生涯学習学研究法(演習)	2			
社会教育課題研究 1	2			
社会教育課題研究 2	2			
1群 現代社会と生涯学習 生涯学習政策 生涯学習とキャリア形成	2 2 2	左欄の 1群から3群から 自由に12単位以上を 選択	社会教育特講 1 (現代社会と社会教育)	
2群 社会教育施設と事業 学社連携・融合論 生涯学習の方法 生涯学習支援システム・ネットワーク 学習支援情報・学習相談 地域学習支援情報の収集・提供 学習成果の活用と地域学習支援情報の提供	2 2 2 2 2 1 1			社会教育特講 2 (社会教育活動・事業・施設)
3群 生涯学習社会と学習成果の評価 社会教育調査法 1 社会教育調査の技法) 社会教育調査法 2 社会教育調査の実際) 教育の理論	2 2 2 2			

社会教育課題研究・社会教育課題演習・社会教育課題演習に属する科目のうち、「社会教育課題研究」については1と2の両方(4単位)を取得してください。詳しくは、人間開発教育課程HPのFAQをご覧ください。  
教育訓練給付金制度は2008年秋学期以降に入学した科目等履修生が上記の科目を1年で修得した場合のみ対象となります。隔学期での開講となる科目もありますのでご注意ください。

## 【図書館司書】

図書館司書の資格は、公共図書館、大学図書館などで働いている方、これから働きたいと考えていらっしゃる方を対象とする国家資格です。学校図書館で学校司書として働いている方にとっては、実務の基礎として役立ちます。

### 履修科目

図書館司書資格は人間開発教育専攻の14科目（22単位）の修得が必要となります。

開設授業科目	単位数	履修方法等	図書館法施行規則で定める科目及び単位数
生涯学習論1(生涯における学習設計)	2	必修	生涯学習概論 1 単位
図書館概論	2	必修	図書館概論 2 単位
図書館経営論	1	必修	図書館経営論 1 単位
図書館サービス論	2	必修	図書館サービス論 2 単位
情報サービス概説	2	必修	情報サービス概説 2 単位
レファレンスサービス演習	1	必修	レファレンスサービス演習 1 単位
情報検索演習	1	必修	情報検索演習 1 単位
図書館資料論	2	必修	図書館資料論 2 単位
専門資料論	1	必修	専門資料論 1 単位
資料組織概説	2	必修	資料組織概説 2 単位
資料組織演習	2	必修	資料組織演習 2 単位
児童サービス論	1	必修	児童サービス論 1 単位
図書及び図書館史	1	2 科目 3 単位必修	図書及び図書館史 1 単位
情報化社会と情報の選択 (公共図書館・大学図書館編)	2		資料特論 1 単位 コミュニケーション論 1 単位 情報機器論 1 単位 図書館特論 1 単位

注：図書館司書の資格を取得する場合には、人間開発教育専攻の「情報化社会と情報の選択（公共図書館・大学図書館編）」を履修してください。家庭教育専攻に「情報化社会と情報の選択」という科目がありますが、間違いのないようお願いいたします。

## 【学校図書館司書教諭】

学校図書館司書教諭の資格は、学校経営に学校図書館を位置づけて展開する際、中核となって働くための国家資格です。司書教諭の資格取得のためには、教諭（小、中、高等学校、中等教育学校、特別支援学校）の免許状を有していることが必要です。

### 履修科目

学校図書館司書教諭は以下の5科目（10単位）の修得が必要となります。

なお、本学では教員免許の取得はできません。教員免許を有している方が対象になりますので、ご注意ください。

開設授業科目	単位数	履修方法等	学校図書館司書教諭講習規程で定める科目及び単位数
学校経営と学校図書館	2	必修	学校経営と学校図書館 2 単位
学校図書館メディアの構成	2	必修	学校図書館メディアの構成 2 単位
学習指導と学校図書館	2	必修	学習指導と学校図書館 2 単位
読書と豊かな人間性	2	必修	読書と豊かな人間性 2 単位
情報化社会と情報の選択	2	必修	情報メディアの活用 2 単位

注：学校図書館司書教諭の資格を取得する場合には、家庭教育専攻の「情報化社会と情報の選択」を履修してください。人間開発教育専攻に「情報化社会と情報の選択（公共図書館・大学図書館編）」という科目がありますが、間違いないようお願いいたします。

### 【博物館学芸員】

学芸員の資格は、博物館・美術館・資料館等で資料の収集・保管、調査研究、展示や教育普及等の専門的な職務を担当する専門的職員になるための国家資格です。学芸員の資格は、学士の学位を取得し、本学所定の科目を履修することで取得できます。

### 履修科目

博物館学芸員資格は、人間開発教育専攻の7科目14単位の修得が必要となります。

開設授業科目	単位数	履修方法等	博物館施行規則で定める科目及び単位数
生涯学習論1(生涯における学習設計)	2	必修	生涯学習概論 1 単位
博物館学(概論)	2	必修	博物館概論 2 単位
博物館学(経営論・情報論)	2	必修	博物館経営論 1 単位 博物館情報論 1 単位
博物館学(資料論)	2	必修	博物館資料論 2 単位
博物館実習	3	必修	博物館実習 3 単位
視聴覚教育メディア論	1	必修	視聴覚教育メディア論 1 単位
教育の理論	2	必修	教育学概論 1 単位

## (2) 履修証明

2007年に学校教育法が改正され、大学等による「履修証明制度」が創設されました。社会人等を対象とした履修証明プログラムの修了者に対して、履修証明書を交付できる制度です。従来の学士等の学位とは異なる、新しい履修・学習の証明となります。

### 【本学で取得できる履修証明 日本語基礎スキルプログラム】

社会人として必要となる、日本語で文章を書き、伝える能力の基礎を、演習形式を基本とした科目によりトレーニングするためのプログラムです。対象科目は文章力・論述力の向上を目指す科目を中心としており、それらの科目を履修していくことで、バランスのとれた日本語のスキルを身につけることができます。

必修/選択(時間数)	科目名
必修科目(2科目 42時間) 右の2科目 42時間を必修とする。	文章表現1(文章表現入門) 論述力スキル(アカデミック・ライティング)
選択科目A(4科目 84時間) 右から4科目 84時間を選択すること。	文章表現2(文章と構成) 自己表現力スキル1 自己表現力スキル2 プレゼンテーション・スキル 論理的思考1(数学的思考と発想) 論理的思考2(論理と表現)
選択科目B(1科目 21時間) 右から1科目 21時間を選択すること。	読解力スキル1(実践的読解力) 読解力スキル2(学術文書読解) ラピッドリーディング・スキル
合計時間数	147時間(必修42+選択A 84+選択B 21)

## (3) 科目修得認証

一定のメニュー科目を修得(あるいは単位取得)したことに對する本学独自の認証で、自己啓発歴、研修歴、学習歴に加えたり、自己アピールに使ったりできるようにするものです。申請者には、本学が認証書を発行します。

それぞれの科目修得認証の対象科目については、人間開発教育課程HPをご覧ください。

[http://study.jp/univ/ygun/menu\\_2\\_H20.htm](http://study.jp/univ/ygun/menu_2_H20.htm)

生涯学習科目修得認証	生涯学習支援を行う場合に必要な知識の修得を目指します。生涯学習科目修得認証を取得後、社会教育主事資格科目からさらに10単位(必修の社会教育計画4単位、社会教育課題研究4単位を含む)を取得すると、社会教育主事の資格が得られます。
学習相談員基礎スキル科目修得認証	人々の学習相談に応じ、適切な情報提供サービスを行う人材が求められています。そこで、生涯学習関連施設や地域で、生涯学習のさまざまな相談ができるスキルを身につけます。
日本語基礎スキル科目修得認証	大学生や社会人に必要な、日本語で文章を書き、伝える能力の基礎を、演習形式を基本とした科目によりトレーニングします。文章力・論述力の向上を目指す科目を中心に履修することで、バランスのとれた日本語のスキルを身につけます。

<p>企業とマネジメントの 基礎スキル科目修得認証</p>	<p>社会や企業に求められるマネジメント能力、問題解決能力や意思決定能力、コミュニケーション能力等を修得します。起業を考えている人、再就職を考えている人、即戦力として自分の能力を磨きたい人を対象としています。</p>
<p>省エネ型都市・地域づくり科目修得認証</p>	<p>資源エネルギーの保全や保護、地球環境保護について見識を高め、経済生活やまちづくりの公共部門に応用する知識が得られます。これらをもとに具体的な政策提言を行う基礎能力を身につけます。</p>
<p>仕事移動診断士科目修得認証</p>	<p>仕事移動診断士は、転職、再就職の希望やボランティアなどの地域社会活動で別の活動に移りたいという人の希望を専門的知識・技法で診断し、社会の活性化に貢献しようとする専門家です。これは高校、大学等での就職相談でも活用できます。</p>
<p>社会人基礎力(1)科目修得認証</p>	<p>国および産業界が要望している、いわゆる「社会人基礎力」の三本柱(アクション、チーム・ワーク、シンキング)、具体的には、行動力、コミュニケーション力、問題解決力、思考力等について現実的且つ基礎的な能力を身につけることを目的としています。理論のみならず、現実的、実践的な内容を主に取り入れています。</p>
<p>税財務・ファイナンシャルプランナー 基礎スキル科目修得認証</p>	<p>経済学、財政学、税金や税務会計の基礎を学びながら、税理士やファイナンシャルプランナー等の資格取得に求められる専門知識も修得します。特に個人や企業等の投資・資産運用に関わる実践的な知識やノウハウを提供します。</p>

## 5 家庭教育専攻が提供する資格・認証・修了証

### 【家庭教育アドバイザー】

家庭教育アドバイザーの資格は、本学で家庭教育に関する高度な専門的知識を学習し、地域の家庭教育指導者・支援者として活躍する際に役に立つもので、日本家庭教育学会が認定する民間資格です。家庭教育アドバイザーの資格を取得すると、同時に家庭教育師としても認定されます。家庭教育アドバイザーの資格を取得するためには、所定の単位を修得し本学を卒業し、日本家庭教育学会に入会することが必要です。

家庭教育アドバイザーの履修方法

25頁～29頁をご覧ください。

### 【家庭教育師】

家庭教育師の資格は、家庭教育に関する専門的知識を有するものに対して、日本家庭教育学会が認定する民間資格です。家庭教育に関するさまざまな分野で専門家として活躍できます。家庭教育師の資格取得には類型によって最大で15科目30単位の履修が必要です。この資格は正科生のみならず、科目等履修生でも取得することができます。家庭教育師の資格を取得するためには、日本家庭教育学会に入会することが必要です。詳細は大学のHPの関連箇所(資格・認証)を参照してください。

### 【ピアヘルパー】

ピアヘルパーの資格はNPO法人日本教育カウンセラー協会が認定する資格で、カウンセリングや関連する心理学の理論方法について学習し、教育・福祉・保育等の実際場面で人とかかわる基本的な力を身につけていることを証明するものです。日本教育カウンセラー協会の準会員になることができますので、卒業後も継続的に学習する機会が得られます。家庭教育専攻の所定の科目を修得し、試験に合格するとピアヘルパーの資格が得られます。

対象・受験資格

本学の学生(正科生、編入生、科目等履修生、特修生)で、以下のうち4科目8単位を取得した方、または取得見込みの方 八洲学園大学が指定する4科目8単位

#### ピアヘルパー 開設授業科目

開設授業科目	単位数	履修方法等
< 第一領域 カウンセリング理論 > 教育カウンセリング(演習) カウンセリング(演習)(面接技法)	2 2	1科目2単位選択
< 第二領域 カウンセリングスキル > カウンセリング(演習)(面接技法)	2	1科目2単位必修
< 第三領域 青少年期の課題とピアヘルパーの留意点 > カウンセリング(演習)(小学生と親) ケーススタディ(演習)「小学生の問題行動の実態と対応」 ケーススタディ(演習)「小学生の不登校」 ケーススタディ(演習)「中学生の不登校と生活環境」 ケーススタディ(演習)「中学生非行の前兆と対応」 ケーススタディ(演習)「高校生非行の実態と要因分析」 ケーススタディ(演習)「青年期のドロップアウト」 児童期の発達と心理	2 2 2 2 2 2 2 2	2科目4単位選択

**【地域スポーツ文化インストラクター基礎資格】**

地域スポーツ文化インストラクター基礎資格は、社会教育主事の任用資格を有し、かつ「身体運動文化」に関する基礎的知識を有するものに対して、身体運動文化学会（日本学術会議協力学術研究団体として認定）が審査のうえ認定するもので、地域スポーツ文化の振興での活躍が期待されるものです。

このインストラクター基礎資格を取得するためには、社会教育主事科目を含む所定科目を修得するほか、スポーツなどの指導者レベルの活動歴、その他の要件が求められます。詳細は身体文化運動学会のHPを参照してください。http://wwwsoc.nii.ac.jp/shintai/

**履修規程別表第7 地域スポーツインストラクター基礎資格**

開設授業科目	単位数	履修方法
児童の発達と身体運動論	2	必修
身体運動文化論	2	必修
青年期の身体運動	2	必修
中高生の武道スポーツと人間形成(演習)	2	必修
ボランティア論	2	必修
キャンプ活動の指導論	2	必修
レクリエーション活動の指導論	2	必修
別表第3の社会教育主事資格取得に必要な科目	24	必修
備考 何らかの武道、スポーツ関係の指導者になれる「段位」、「記録」等を保持していることが望ましい。		

**【子育てサポーター科目修得認証】**

育児中の親等の話し相手、相談相手になるなどの子育て支援についての基礎的な能力を身につけます。

対象科目

必修/選択 単位数	科目
右から 2 科目 4 単位を選択する。	カウンセリング(演習)(乳幼児と母親) カウンセリング(演習)(小学生と親) カウンセリング(演習)(理論と方法) カウンセリング(演習)(面接技法 ) カウンセリング(演習)(面接技法 ) 教育カウンセリング(演習)
右から 1 科目 2 単位を選択する。	人生の哲学と人間形成 乳幼児のしつけ(演習) 小児期の心身・精神医学入門

【修了証】

下記のコースの所定科目を修得すると、修了証を発行いたします。発行には申請書が必要です。各コースの科目については、家庭教育課程HPをご覧ください。

<http://study.jp/univ/yguk/gakusyu.html>

「日本の伝統と文化を学ぶ」コース	日本の伝統の和歌、俳諧、祭事、茶道、華道といった文化講座と、それら伝統文化の底辺に流れる文化論、芸能論、宗教論、語学論などの理論を学びます。日本の伝統や文化の価値をもう一度確かめ、その真髄を堪能してください。
「教養としての倫理・思想を学ぶ」コース	日本・東洋・西洋にわたる古今の思想、そして宗教学を学びます。みずから人間観・死生観・倫理観などを省みつつ学べば、心を豊かにする真の教養を身につけることができます。思想の古典に触れる良い機会も得られます。
「心を育てる教育を学ぶ」コース	教育課題の一つである「子どもの生きる力を育てる」ことの核となるのが、思いやり、向上心、公正さ、正義感などの心の育成です。そこで、心理学や医学の分野、子育ての面から子どもの心に触れ、その育て方を総合的に学びます。
「スポーツとボランティアを学ぶ」コース	体を動かすことや社会活動が、子どもたちの社会力(社会をつくっていく力)の育成につながるという観点から、スポーツとボランティアのあり方を、実習を含めた授業で多面的に学びます。社会参加に新しい視点を備えることもできます。
「学校・家庭・地域の連携を学ぶ」コース	学校・家庭・地域が連携して子どもの教育を行うことの重要性が指摘され、学校や地域行政からの具体的なプランが実施されています。そこで、家庭は、学校や地域にどう関わっていけばよいのか、家庭の視点から考えていきます。
「子どもの成長を学ぶ」コース	乳幼児期から青年期までの子どもの発達のプロセスを理解することで、子どもの成長を楽しむゆとりが生まれます。小中学生とその親への教育相談を含めて、子どもの成長を楽しむという視点から、子どもの成長について学びます。
「思春期の問題(行動)を学ぶ」コース	今まで「良い子」「普通の子」と思われていた子どもたちが、なぜ思春期前後から問題行動を多発するようになるのでしょうか。不登校、家庭内暴力、ひきこもり、非行、自殺(未遂)などの事例を通し、その実態や原因、対応を考えます。
「心理カウンセリングの基礎を学ぶ」コース	人は、誰でも、成長の過程で、たとえば反抗・恋愛・就職などさまざまな問題に遭遇するものです。そのなかで、心に関わる問題を解決するために、カウンセリング(相談)の心得・技法を実例を通して学びます。

家庭教育アドバイザーの履修方法

履修規程別表第2 家庭教育アドバイザー

開設授業科目	単位数	履修方法等
カウンセリング(演習)(乳幼児と母親)	2	左の科目から2科目4単位選択履修
カウンセリング(演習)(小学生と親)	2	
カウンセリング(演習)(理論と方法)	2	
カウンセリング(演習)(面接技法Ⅰ)	2	
カウンセリング(演習)(面接技法Ⅱ)	2	
教育カウンセリング(演習)	2	
(保育期対象)別表第2-1に掲げる科目	14	アドバイザーの対象(保育期、児童期、青年期、学校教育と家庭教育の連携)に応じて、左から、一つ以上の対象を選択履修
(児童期対象)別表第2-2に掲げる科目	14	
(青年期対象)別表第2-3に掲げる科目	14	
(学校教育と家庭教育の連携対象)別表第2-4に掲げる科目	14	
備考 この表は、家庭教育アドバイザー資格を取得するために修得すべき授業科目及び単位数を掲げたものである。履修に際しては、アドバイザーの対象に応じて、別表第2-1、別表第2-2、別表第2-3、及び別表第2-4に従うものとする。尚、いずれも家庭教育専攻専門科目46単位以上を修得し、本学の卒業要件を満たしていることが必要である。		

履修規程別表第2 - 1 家庭教育アドバイザー(保育期アドバイザー)

開設授業科目	単位数	履修方法等
カウンセリング(演習)(乳幼児と母親)	2	左の科目から2科目4単位選択
カウンセリング(演習)(小学生と親)	2	
カウンセリング(演習)(理論と方法)	2	
カウンセリング(演習)(面接技法 )	2	
カウンセリング(演習)(面接技法 )	2	
教育カウンセリング(演習)	2	
乳幼児のしつけ(演習)	2	左の科目から7科目14単位選択
胎児と環境	2	
乳幼児の食生活	2	
乳幼児の身体運動と情操教育(演習)	2	
育児国際比較論	2	
幼児教育思想史	2	
小児期の心身・精神医学入門	2	
親子の信頼関係	2	
障害児と家庭教育	2	
障害児の教育と特別支援	2	
備考 この表は、保育期の子どもの家庭教育にかかわる家庭教育アドバイザーの資格を取得するために修得すべき授業科目及び単位数を掲げたものである。尚、家庭教育専攻専門科目46単位以上を修得し、本学の卒業要件を満たしていることが必要である。		

履修規程別表第2 - 2 家庭教育アドバイザー (児童期アドバイザー)

開設授業科目	単位数	履修方法等
カウンセリング(演習)(乳幼児と母親)	2	左の科目から2科目4単位選択
カウンセリング(演習)(小学生と親)	2	
カウンセリング(演習)(理論と方法)	2	
カウンセリング(演習)(面接技法 )	2	
カウンセリング(演習)(面接技法 )	2	
教育カウンセリング(演習)	2	
生命尊重と家庭教育	2	左の科目から7科目14単位選択
自律の精神と家庭教育	2	
礼儀と家庭教育	2	
宗教的心情の育成と家庭	2	
伝統社会の児童教育論	2	
体験と心の育ち	2	
地域社会との連繋	2	
働く意欲の探求	2	
児童期の発達と心理	2	
児童期の発達と親の対応	2	
児童期の発達と身体運動論	2	
キャンプ活動の指導論	2	
レクリエーション活動の指導論	2	
備考 この表は、児童期の子どもの家庭教育にかかわる家庭教育アドバイザーの資格を取得するために修得すべき授業科目及び単位数を掲げたものである。尚、家庭教育専攻専門科目46単位以上を修得し、本学の卒業要件を満たしていることが必要である。		

履修規程別表第2 - 3 家庭教育アドバイザー(青年期アドバイザー)

開設授業科目	単位数	履修方法等
カウンセリング(演習)(乳幼児と母親)	2	左の科目から2科目4単位選択
カウンセリング(演習)(小学生と親)	2	
カウンセリング(演習)(理論と方法)	2	
カウンセリング(演習)(面接技法 )	2	
カウンセリング(演習)(面接技法 )	2	
教育カウンセリング(演習)	2	
情報化社会と情報の選択	2	左の科目から7科目14単位選択
言語生活と社会	2	
善悪の判断形成と家庭教育(演習)	2	
人生と生きがい論	2	
規範意識の育成	2	
正義感の育成	2	
徳の倫理	2	
道徳教育の研究	2	
個性尊重と創造性の育成	2	
公共精神の育成(演習)	2	
青年期の体験活動育成(演習)	2	
青年期の身体運動	2	
中高生の武道スポーツと人間形成(演習)	2	
備考 この表は、青年期の子どもの家庭教育にかかわる家庭教育アドバイザーの資格を取得するために修得すべき授業科目及び単位数を掲げたものである。尚、家庭教育専攻専門科目46単位以上を修得し、本学の卒業要件を満たしていることが必要である。		

履修規程別表第2 - 4 家庭教育アドバイザー(スクールアドバイザー)(学校教育と家庭教育の連携)

開設授業科目	単位数	履修方法等
カウンセリング(演習)(乳幼児と母親)	2	左の科目から2科目4単位選択
カウンセリング(演習)(小学生と親)	2	
カウンセリング(演習)(理論と方法)	2	
カウンセリング(演習)(面接技法 )	2	
カウンセリング(演習)(面接技法 )	2	
教育カウンセリング(演習)	2	
ケーススタディ(演習)「幼児の体罰と虐待」	2	左の科目から7科目14単位選択
ケーススタディ(演習)「小学生の問題行動の実態と対応」	2	
ケーススタディ(演習)「小学生の不登校」	2	
ケーススタディ(演習)「中学生の不登校と生活環境」	2	
ケーススタディ(演習)「中学生非行の前兆と対応」	2	
ケーススタディ(演習)「高校生非行の実態と要因分析」	2	
ケーススタディ(演習)「青年期のドロップアウト」	2	
保育園・幼稚園教育と家庭教育概論	2	
初等教育と家庭教育概論	2	
中等教育と家庭教育概論	2	
備考 この表は、学校教育と家庭教育の連携にかかわる家庭教育アドバイザーの資格を取得するために修得すべき授業科目及び単位数を掲げたものである。尚、家庭教育専攻専門科目46単位以上を修得し、本学の卒業要件を満たしていることが必要である。		